



2019年規則の主な規則の解説

2019年1月1日から新しいゴルフ規則が施行されます。この新しいゴルフ規則はより分かりやすく、簡単に、不要な罰をなくし、プレーのペースの役に立つよう、様々な観点から従来の規則を抜本的に見直したものです。

ここでは、とくに一般のゴルファーに影響する大きな変更点を説明しています。さらに詳細な内容についてはJGA ホームページに掲載されている資料をご参照いただければと思います。

1. 委員会は行動規範を作ることができます。

委員会はエチケットやゴルフゲームの精神に反する行為をしたプレーヤーに失格以外の罰、例えば1打や2打の罰を課す行動規範を作ることができます。



2. 5つのコースエリア

コースは5つのコースエリアに分けられ、その名称が変わるものがあります。

ティーインググラウンド ⇒ ティーイングエリア

スルーザグリーン ⇒ ジェネラルエリア

バンカー (変わらず)

ウォーターハザード ⇒ ペナルティーエリア

パッティンググリーン (変わらず)

3. 距離計測機器の使用が認められます。

距離計測機器の使用が認められ、2点間の距離を計測することができます。しかし、高低差、風向きなど、他のプレーに影響する要素を計測することはできません。

委員会はローカルルールで距離計測機器の使用を禁止することができます。

4. 球の搜索時間が3分になります。

球の搜索時間が5分から3分に短縮されます。このことは紛失球となる可能性を高めるので暫定球をプレーするプレーヤーが増えるかもしれません。全体的にはプレーのペースに役立ちます。

5. **スタンスをとった後、キャディーが後方に立つことはできません。**

新しい規則ではプレーヤーがスタンスをとった後にキャディーを後方に立つことを禁止しています。ストロークを行う前にキャディーがその場所を離れたとしても一般の罰(ストロークプレーでは2打)を受けることになります。

6. **ドロップの方法**

現在の規則は肩の高さからドロップしますが、新しい規則では膝の高さからドロップすることになります。低い位置からドロップすることで、救済エリアの中に球を止めやすくなり、再ドロップなどのさらなる処置をすることを避けることができます。



7. **2度打ちをしても罰はありません。**

2度打ちをしたときの1罰打がなくなります。偶然、不可抗力で2度打ちをしたことに罰を課す必要はありません。そのストロークを1打と数えるだけとなります。

8. **ストロークした球が自分に当たっても罰はありません。**

ストロークした球が偶然にプレーヤー自身に当たってしまった、または自分のキャディーや用具に当たってしまったも罰はありません。球はあるがままにプレーします。

9. **救済を受けるときにマーカーに告げる必要はありません。**

現在の規則では、救済処置をする場合にマーカーに告げることを求めているものがありますが、もうその必要はありません。これはプレーヤーの誠実さを信頼するというこのゲームの原則を尊重しています。なお、暫定球をプレーする場合は、これまで通り、「暫定球をプレーします」と告げなければなりません。

10. **救済を受けるときは、いつでも球を取り替えることができます。**

現在の規則では罰なしの救済(例えばカート道路からの救済)では球を取り替えることはできません。新しい規則では、罰あり、罰なしに関係なく救済規則に基づいて拾い上げた球は別の球に取り替えることができます。

11. バンカーのルースインペディメントを取り除くことができます。

球がバンカー内にある場合、ルースインペディメント(木の葉、石などの自然物)を罰なしに取り除くことができるようになります。



12. バンカーで2罰打を加えたら、バンカー外にドロップできます。

バンカーに球があるときに、アンプレヤブルの追加の選択肢として、2打の罰を加えれば、球とホールを結ぶ線上でそのバンカーの後方の外側にドロップすることができます。バンカーが苦手なプレーヤーにとってはよい規則かも知れません。



13. ウォーターハザードはペナルティーエリアという新しい概念に変わります。

現在のウォーターハザードは水域だけを設定できます。新しいペナルティーエリアは水域だけでなく、委員会が1打の罰で救済を認めたい区域に設定することができます。例えば、ブッシュや崖、球を見つけることや打つことが困難な雑木林などをペナルティーエリアとして設定することができます。救済処置は原則として現在のラテラル・ウォーターハザードと同様ですが、対岸の処置を使うことはできません。

14. ペナルティーエリアではクラブを地面につけることができます。

ペナルティーエリアの球をあるがままにプレーする場合、クラブを地面につけることができますし、ルースインペディメントを取り除くこともできます。つまり、ジェネラルエリアと同じ規則でプレーすることができます。





15. キャディーはパッティンググリーンの球をマークして拾い上げることができます。

現在の規則では、キャディーであってもプレーヤーの球を拾い上げる場合はその都度承認が必要です。新しい規則では、パッティンググリーンの球に限っては、キャディーがプレーヤーの承認を得なくてもマークして拾い上げることができます。



16. 旗竿を立てたままパットすることができます。

パッティンググリーンからパットするときに旗竿を立てたままパットすることができます。もしパットした球がホールに立てられているその旗竿に当たっても罰はなく、球はあるがままにプレーします(ホールインが認められる)。この規則はロングパットの際に誰かが旗竿に付き添ってくれるのを待つ時間を節約することができるでしょう。



17. パッティンググリーン上のプレーの線に触れただけでは罰はありません。

パットをするときにそのプレーの線上のグリーン面に触れただけでは罰はありません。例えば、キャディーさんがねらい目を指で触ることも違反ではありません。ただし、改善をしたという事実があれば罰(ストロークプレーでは2罰打)を受けることになります。



18. パッティンググリーン上の損傷箇所を修復できます。

パッティンググリーン上の損傷箇所(人、動物、乗り物などによって作られたもの)を修復することができます。例えば、プレーの線上にあるスパイクマークを修理することができます。ただし、自然に窪んでいるところを平にすることはできません。



19. 救済エリアを計測するクラブ

1 クラブレンジスや 2 クラブレンジスの救済エリアを計測する場合に使用するクラブは、プレーヤーがそのラウンドのために持ち運んでいる最も長いクラブ(パターを除く)となります。したがって状況によってクラブレンジスを計測するクラブを変えることはできません。



20. 球を動かしたことの罰の免除

新しい規則では次の場合に球を動かしたことの罰が免除されます。

- 球を捜しているときに自分の球を動かした場合
- パッティンググリーン上で偶然に球を動かした場合
- 規則に基づいて球をマークする、拾い上げる、リプレースするときに球を動かしてしまった場合

以上